

# 「よく見れば」こんな自然が！

2018年1月20日

吉田 万佐敏

## < 小原和紙づくり準備 >

1月19日に、小原和紙の里の小中学生が、和紙の原料のコウゾの皮むき作業に取り組みました。事前の16日にコウゾの枝を伐採収穫する準備が進められました。

23 週三河

2018年(平成30年)1月20日(土曜日)



丁寧にコウゾの皮をはく子どもたち  
豊田市水太郎町の「和紙のうらさき」で  
(森本尚平)

### ◆和紙

#### 豊田 69人がコウゾの皮はぎ

小原和紙の原料となる  
コウゾの皮をはぐ作業  
「カンゾカシキ」が十九  
日、豊田市水太郎町の施  
設「和紙のうらさき」で  
開かれた。地元の小中学  
生ら六十九人が参加し、  
伝統的な製法を体験し  
た。

カンゾカシキは、コウ  
ゾとそれを蒸す器具「こ  
しき」がなまつた小原地  
区特有の呼び方。子ども  
たちは軍手をはめ、同施  
設職員の指導を受けなが  
ら、蒸されたコウゾ三百  
七十枚の皮を、工場に一  
枚一枚はいでいった。

初めて体験した小原中  
部小三年の山内葵さん  
(左)は「最初はむきにく  
くて大変だったけど樂し  
かった」と笑顔で話した。  
はいた皮は一握りほど  
の束にしてまとめ、一週  
間ほど天日干しにして乾  
燥させ、和紙の原料とす  
る。「二十八枚ほどの和紙  
ができ、市内小中学校の  
卒業証書や同施設で作ら  
れている番傘に使われ  
る。(森本尚平)

生ら六十九人が参加し、  
伝統的な製法を体験し  
た。

